

令和6年度 全国学力・学習状況調査の結果について

1 名古屋市の実施状況

	学校数（校）		児童・生徒数（人）	
	名古屋市（公立）	全国（公立）	名古屋市（公立）	全国（公立）
小学校	260	18,468	17,378	947,579
中学校	110	9,268	15,279	875,952

（令和6年4月18日に実施した学校について集計）

2 教科に関する調査結果

- ・ 小学校6年生については、全国平均と比べ、国語はやや低く、算数はやや高い結果であった。
- ・ 中学校3年生については、全国平均と比べ、国語はやや低く、数学は高い結果であった。

(1) 公立の教科区分別平均正答率(%)

（全国・愛知県との比較）

		小学6年生			中学3年生		
教科	年度	名古屋市	愛知県	全国	名古屋市	愛知県	全国
国語	6	66 (9.2/14)	65	67.7	57 (8.6/15)	58	58.1
	5	65	65	67.2	70	70	69.8
	4	64	63	65.6	69	69	69
算数・数学	6	65 (10.5/16)	64	63.4	56 (9.0/16)	55	52.5
	5	62	61	62.5	55	54	51.0
	4	63	63	63.2	55	54	51.4

※ 6年度（ ）の数字…平均正答数／問題数(問)

(2) 教科に関する調査から見られる名古屋市の傾向

- ・ 小中学校ともに、いずれの教科も全国と比較して無回答率が高い。
- ・ 小学校の結果は、全国と比較して国語がやや低く、算数はやや高い数値となった。特に、国語の「漢字を文の中で正しく使う」は正答率が低い。算数の「数量の関係を□を用いた式に表す」は正答率が高い。
- ・ 中学校の結果は、全国と比較して国語がやや低く、数学は高い数値となった。国語は「話し合いの話題や発言を踏まえ、自分の考えを書く」は全

国と比較して正答率が低い。数学の「問題場面における考察の対象を明確に捉え、正の数と負の数の加法の計算ができる」は正答率が高い。

3 教科に対する学習意欲に関する調査結果

- ・ 小学校6年生については、国語は全国平均をやや下回り、算数は同程度であった。
- ・ 中学校3年生については、国語は同程度で、数学はやや高い結果であった。

○ 教科に対する学習意欲に関する質問のうち肯定的な回答の割合 (%)

教科	年度	小学校6年生			中学校3年生		
		名古屋市	愛知県	全 国	名古屋市	愛知県	全 国
国語	6	79.2	80.7	84.0	82.1	80.3	82.9
	5	80.4	80.7	83.6	79.2	77.3	80.6
	4	78.0	78.9	82.1	81.3	79.1	81.5
算数 数学	6	82.3	82.2	83.0	77.5	74.5	74.8
	5	82.8	81.5	82.5	72.7	71.5	72.7
	4	81.4	81.3	82.8	75.1	73.4	74.4

※ 児童生徒質問調査の「教科に対する学習意欲に関する質問」のうち、
「国語(算数・数学)の勉強は好きだ」
「国語(算数・数学)の勉強は大切だ」
「国語(算数・数学)の授業の内容はよく分かる」
「国語(算数・数学)の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ」
の4つの質問に対して、「当てはまる」、「どちらかという当てはまる」と回答した児童生徒の割合。

4 児童生徒質問調査結果の特徴

(1) 児童生徒のよいところが見られる項目

	項目内容	名古屋市(%)	全国(%)
小学校	学校に行くのは楽しい	86.0	84.8
	分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができる	81.7	80.7
	自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる	88.6	88.2
	授業で学んだことを、次の学習や実生活に結び付けて考えたり、生かしたりすることができる	83.9	83.7
中学校	学校に行くのは楽しい	86.4	83.8
	分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができる	81.1	78.6
	学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができる	86.9	86.1
	課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができる	80.4	80.3

(2) 伸ばしていきたい項目

	項目内容	名古屋市(%)	全国(%)
小学校	各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動をしている	79.5	79.6
	ICTを活用して、自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる	78.8	79.2
中学校	各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動をしている	74.5	75.4
	ICT活用では、自分のペースで理解しながら学習を進めることができる	73.3	80.2

(3) 児童生徒質問調査から見られる名古屋市の傾向

- ・ 小中学校ともに「学校に行くのは楽しい」「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができる」と回答している児童生徒の割合が高い。
- ・ 小学校では、「自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる」と回答している割合が特に高い。
- ・ 中学校では、「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができる」と回答している割合が特に高い。
- ・ 小中学校ともに「各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動をしている」と回答している児童生徒の割合は、全国と同程度である。
- ・ 小学校の「ICTを活用して、自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる」、中学校の「ICT活用では、自分のペースで理解しながら学習を進めることができる」と回答している児童生徒の割合は、全国と比較して低い。

5 今後の対応

- ・ 教育委員会は「学力向上プロジェクトチーム」を立ち上げ、名古屋市の結果を論理的に分析し、各学校の学習課題改善に向けた取組みを支援する。
- ・ 教育委員会は、各学校の授業・指導方法の具体的な改善策を把握し、助言を行う。
- ・ 各学校は、自校の結果を分析し、授業・指導方法の改善に向けて取り組むとともに、結果及び改善策を保護者に周知する。

6 学校別の平均正答率等の公表

名古屋市としては、本調査の実施要領に則り、学校別の平均正答率等を一覧にした公表は行わない。

(令和6年8月7日提出 教育支援部義務教育課)